



HIRUGANO  
ばーど・うおっち

File No.4  
**ホオアカ**  
スズメ目ホオジロ科  
全長約15~16cm



「チッチッチ」  
ひるがのに初夏を告げる、高く澄んだ声。

ホオアカは、その名のとおり、ほっぺの紅色が特徴です。「チッチッチ」と高い澄んだ声で6月の牧草地をさえずるひるがの高原のシンボリックな野鳥です。



とても小さな鳥なので、双眼鏡がないと見分けるのは少々難しいかもしれませんが、双壁の「オオジシギ」(第一回掲載)と同じ環境に生息しており、小高い丘の上に周りを見渡すように留まっている姿が印象的です。


ひるがの高原では湿地のみに生息していたホオアカですが、現在は自然環境の変化に対応して、生息地の中心を牧草地に移しているようです。というのも、ホオアカの生息には広い草地が必要なことに加えて、喧騒を極端に嫌うため。最近では個体数が激減しており、ある調査によれば、ひるがの高原では、二箇所の縄張り確認されているのみ、とのこと。

かつて、ひるがの高原には、「ホオアカ山荘」という名前のロッジがあったと聞きました。昔からホオアカとひるがの高原は深い繋がりがあったことが偲べれます。この先もホオアカが心地よく生きていける自然環境を守っていききたいですね。

【文/写真:舟橋哲也】

File No.1  
**オオジシギ**

岐阜県内で絶滅のおそれのある生物のリストにも載っている貴重種。4月~7月にかけ、見かけることが出来る。ひるがのでは、ときおり電柱の上にも止まっていることがあり、ディスプレイ・フライトと呼ばれる鳴きながら急降下や旋回など特徴のある飛び方をします。



知ればもっと好きになる。

森にしか咲かない花

ひるがの高原のキンランに思うこと

キンランは、落葉紅葉樹林に生えるランの仲間です。かつては、日本中にいたるところにあったということなのですが、私自身はひるがのに移り住むまで見たことがありませんでした。ランの仲間といえばかつてブームがあったエビネが有名ですが、こちらの方も野生のものはまだ見たことがありません。実は、20歳を過ぎるまで、野生のランを含む山野草にはほとんど興味がなく、人気のある野性のランや山野草が私が興味を持ち始めたころには自然界からは姿を消しはじめていたということなのでしょう。そうなった原因の一つは、採り過ぎだと言われています。

ひるがの高原でも、ひるがの湿原植物園内のカタクリが掘り採られたりしています。ササユリはよく花をつまれていますし、昔ひるがの高原にたくさんあったらしいエブリンドウも採られ過ぎたのか、とても少なくなってしまいました。きれいな草花を採りたい気持ちは分からないでもないです。しかし、ほとんどの植物は種子で増えます。花が無くなれば種子ができず、やがて減って行くのは当然です。また、根っこごとあるいは球根ごと採られる場合もあります。採った人は自宅の庭や鉢にでも植えるつもりなのでしょうが、ほとんどの場合うまく育てられないようです。それは、元々生えていた場所の温度、水分、光、栄養条件とあわない場所に移植されたからかもしれません。

木や菌の助けがなければ  
芽を出すことも出来ないランのたね

キンランなどランの仲間の場合は、温度や水以外の条件も重要です。ランの仲間はとても小さな種子を非常にたくさん作るという特徴があります。そして、このとても小さな種子の中には、発芽の際に必要な栄養がまったくないのです。例えば、稲の場合には、いわゆる食物としての米にあたる胚乳とよばれる部分に栄養が貯えられており、この栄養を使って発芽します。ところが、ランの種子は発芽の際に、土の中にある菌類つまりカビやキノコの仲間の助けが必要なのです。ランは菌類から栄養をもらうことによって発芽し、さらにその後の生長にも菌類の働きが必要になってきています。ランの根には、そのような菌類の菌糸が入り込んで一種の共生した状態となっています。これを菌根といいます。キンランなどいくつかのランの仲間につき菌類は、さらに別の植物の根から栄養をもらっていることが分かってきました。この場合、キンランはそのような菌類に共生あるいは寄生し、菌類が木からももらった栄養をさらにもらっているということになります。ということは、キンランだけを移植してもうまく行かないということです。このようなキンラン、菌類、木の間のような依存関係は、最近になって少しずつ分かってきたことです。また、キンランの場合には条件が悪いと、葉も根もはっきりしない原茎体(げんけいたい/プロトコルム)という状態で、地中で何年も経過して、花を咲かすまで条件が良くなるのを待つこともあるそうです。



キンラン(金蘭)  
山や丘陵の林の中に生える地上性のラン。高さ30-70cmの茎の先端に4月から6月にかけて明るく鮮やかな黄色の花をつける。元々、日本ではありふれた和蘭の一種であったが、1990年代ころから急激に数を減らし、1997年に絶滅危惧類(環境省レッドリスト)として掲載された。

植物は人間には想像のつかない  
工夫をして生きている

そういえば、今まで何もなかったところに急に花が咲くこともありますし、何年も花が咲かないからといってあきらめるのは早計かもしれません。植物は動くことが出来ないで、私たち人間には想像のつかない工夫をして生きているかもしれません。そして、キンランのように身近な山野草についても、複数の種類の生き物がどのように関わって生活しているかについては、最近になってようやく分かりかけてきたことなのです。ある1つの種がいなくなることが、他の種にどのような影響を及ぼすのかは、いなくなってから初めて気がつくことなのかもしれないし、ひょっとすると永遠に気がつかないままなのかもしれません。それは、私にはとても残念なことのように思います。

【情報 提供/写真:瀬川和也】

夏からの



7月9日、コキアパークOPEN  
夏の営業がスタートしました。

2回目の夏を迎えたコキアパーク。今シーズンは、スキー場頂上までリフトを運行しています。暑い夏でも、頂上まで登ると風もさわやか。展望台からひるがのを見下ろすと冒険王気分が味わえるかも。のんびり歩いて下りる途中には、夏の野草が花盛りです。

お盆頃には  
中庭のお花畑で  
他の花々も貝ごろうと  
むかえます



頂上にある展望台。思わすマッホー!!!



リフトに乗って頂上へ 一面のアザミ野原(7月撮影) 頂上からのルートはいろいろ ドックラン近くの休憩所 うさぎもいるよ! ビヤ屋さん!

今はまだまだ  
小さいけれど...



上:植え込み風景  
下:種から育てた  
ビニールハウス内の  
コキアや花苗

9月には  
こんなに大きく  
なるつもり...

ディスクゴルフ  
もよろしく!



ディスクとは、frisbeeのこと。ゴルフのボールを打つ代わりに、frisbeeを投げてゴールに入れその投数を競います。

全9ホール。途中まででもOKですが、スタッフのおすすめは、最後⑨ホール。斜面の上から投げ下ろすコースが気持ちいいそうです。一人300円でディスクを借りれば回れます。ぜひ体験してみてくださいね。

